



アジア地域統合理論化研究会 報告書

開催日 : 2009年3月30日(日)、31日(月)
場所 : 静岡県熱海市
出席者 : 天児慧、浦田秀次郎、黒田一雄、篠原初枝、深川由起子、梅森直之、赤尾健一、
栗田匡相、鴨川明子
書記 : 上久保誠人、高橋華生子、長田洋二、事務スタッフ

1. 中間評価関連資料の説明。

以下、釣谷より説明：(1)「提出書類」；(2)「組織体系」の変化；(3)「報告書」(中間評価提出用)；(4)データ(部分集計済み)；(5)「要綱」(文科省からの今回の評価要綱、Q&A付き)；(6)「既提出」(既に提出済みの書類。拠点形成計画の概要)；(7)「留意事項」(採択時の留意事項)；(8)「審査員」(採択された時の審査員)；(9)「参考資料」(21世紀COE時の資料)；(10)「評価結果」(演博COE、現代アジアの中間評価、現代アジアの最終評価)。

2. 中間報告全体の説明

以下、天児先生がたたき台を基に説明。

(1) COE そのものに対して、政治家から予算の無駄遣いと厳しい評価がある。

しっかりした中間報告を提出する必要性。

(2) スケジュール：

- ・学内審査提出 4月6日
- ・文科省への提出：4月21日必着

3. 「報告書」ドラフトの説明

以下、天児先生から説明。

(1)「拠点形成の目的」

- 3つの目的：(A) 理論形成；(B) 2つは人材育成。「アジア大」のダイナミックな思考と学職；(C) 連携ネットワークの構築。
- 政治・経済・社会の3つの領域から分析。

(2) 「拠点形成計画及び進捗状況の概要」

- アジアの範囲設定「ASEAN 10 + 3 + 周辺各国」
- 人材育成：新しいネーミング。
 - 1) 「アジア特別フェロー (RA)」特に専門的な人材
 - 2) 「アジア一般フェロー (支援スキーム)」
 - 3) 「特別研究員」(ポスドク)
- ネットワーク作り
 - 1) 4大学合同ワークショップ、サマースクール。
 - 2) ASEAN との人材育成強化の相互協力。
- 2年目の進捗。
 - (A) 研究推進担当の松岡副代表の就任。
 - (B) について：
 - 1) 赤羽教授の招聘。
 - 2) サマーインスティテュートの実施。
 - 3) 「アジア統合セミナー」
 - 4) WUDSN
 - 5) Asian Regional Integration の発刊。

(3) ここまでについて、事業推進担当者のコメント。

- 地域統合という概念の明確化が必要。
- 共同体づくり、制度化の必要性に言及する。
- 留意事項での指摘の「地域」の概念は古く、「それでは解けない問題が出てきている」という表現方法がある。

(4) 「拠点形成全体」

- いかにかにアジア統合への関心を喚起する体制を作っているか。
- 運営マネジメント体制
 - 1) 役割分担の明確化
 - 2) 事務局体制の確立。
 - 3) ARIIRの刊行。
- 国際競争力のある大学づくり。
 - 1) アジ太の2言語体制のカリキュラムはかなり強調できる。

- 2) 海外大学の関係大学院とMOU。
- 3) 外国人学者による評価委員会。
- 4) アジアフェロー、特別研究員の国際的学会参加、論文投稿。

(5) 「当初計画に対する改善点及び今後の展望」

- ・研究分野
 - 1) 4領域を3領域へ。
 - 2) 「アジア地域統合学」の構築。
- ・人材育成
 - 1) 育成の段階の明確化、就職活動の支援。
 - 2) 地域統合研究の専門性の明確化。
 - 3) 育成サポート体制の明確化。

→研究希望者の顕著な増加
- ・連携ネットワーク分野
(スリン・ピッツワンASEAN事務局長)
- ・運営体制

(6) 国際的に卓越した教育研究拠点として継続的な教育研究活動が行われるか。

- ・来年度には「アジア地域統合コース」として科目群を設置。
- ・事業推進担当者のレベルアップ、しっかりした共同研究、海外著名学者の参加。
- ・既に研究科として優秀な海外からの人材が集まる流れはできている。

(7) 他大学等との連携

- ・ブリュッセル自由大学「エラスムス博士課程サマー教育プログラム」

(8) 「人材育成面」「人材育成計画」

- ・アジア研究機構「次世代研究者フォーラム」+WUDSN。
- ・支援スキームの制度化。
- ・サマーインスティテュート
- ・若手企画の研究大会・ワークショップのサポート。
- ・領域別グループ指導の強化。
- ・インターンシップ。
- ・アジア統合の世界的拠点形成戦略の推進

(9) 「研究活動面」

- ・国際的な研究活動

- 1) 第一回、第二回国際シンポジウム
スリン、アチャリヤ、スパチャイ氏招聘
- 2) 外部評価委員
- 3) アジア地域統合学の構築

(10) 「研究拠点形成実施計画」

- ・「アジア地域統合学」を前面に打ち出す。
- ・6つのクロス・アプローチ
「政治」「経済」「社会」
「アイデンティティ」「サステナビリティ」「ネットワーク」
→「3 X 3」のマトリックス構造で捉える。

4. 事業推進担当者からの主なコメント

- (1) GIARI とアジ太との関係性：研究科の中での位置づけ（戦略）の明確化。
修士課程との連携は重要。
- (2) 組織改編は、組織の発展を強調する。
- (3) この拠点がオンリーワンであることを前面に打ち出す。
特に、人材育成という観点では世界的な拠点であること。
- (4) 人材育成プログラムの具体化の必要性。
 - ・これまでやってきたことの整理。
 - ・アジア（地域）統合学とコンテンツとの関係の明確化。
- (5) A-Vision 調査の提案：アジアの次世代リーダーのビジョンの調査
 - ・アジ太であれば、コスト安かつ継続的な研究調査をおこなえる。
 - ・授業のコンテンツとしても使える。
 - ・調査を通じて、ネットワークを構築できる。
→調査に生徒を関わらせること、それも現地生徒の人材育成になる。
- (6) GIARI モデルについて。
 - ・メルティングポット型とモザイク型があるが、アジアの地域統合はモザイク型である。
→接合点（深川先生が図で指摘した重層性）を探ることが重要。
重層的なアイデンティティがキータームとなりうる
＝「重層的なアイデンティティ」の形成
アジア統合における人材育成の核の1つ。

5. 今後のスケジュール：

- (1) 中間評価書類提出のスケジュールは、来週の月曜日まで。

(2) 分担：

- ・拠点形成の目的：天児
- ・進捗状況の概要：梅森・黒田・鴨川
- ・拠点形成全体：梅森・黒田・鴨川
- ・当初計画に対する改善点及び今後の展望
- ・人材育成面：浦田・深川・上久保
- ・研究：松岡

以上